

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-06 環境問題を 考える	20130586008102	●環境問題を 考えるⅠ(地 球温暖化を考 える)	和	E	高尾 雄 二	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-06 環境問題を 考える	20130586009301	●環境問題を 考えるⅠ(生 物多様性を考 える)	和	E	中西 こ ずえ	1年,2年,3年,4年	後期	月 1	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-06 環境問題を 考える	20130586009701	●環境問題を 考えるⅠ(都 市環境を考 える)	和	E	谷村 賢 治	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～

戻る



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-06 環境問題を考える**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586008102	科目番号	05860081
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(地球温暖化を考える)		
編集担当教員	高尾 雄二		
授業担当教員名(科目責任者)	高尾 雄二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高尾 雄二,河本 和明,富塚 明,和達 容子		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	医学部,歯学部,工学部		
担当教員Eメールアドレス	高尾雄二(takao@nagasaki-u.ac.jp), 河本和明, 富塚 明, 和達容子		
担当教員研究室	環境科学部3階, 2階, 4階		
担当教員TEL	内線2753		
担当教員オフィスアワー	月曜日9:00-10:30		
授業のねらい	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。		
授業方法（学習指導法）	グループワークを組み込み、予習を前提にしたアクティブラーニング方式、または、講義後に小テストまたは班別討議等を行う。講義のレベルおよび内容は、学部混合型であることを前提に、できるだけ平易な表現を使って、理解しやすい内容を提供する予定です。		
授業到達目標	温暖化の仕組みやそれに密接に関連する重要項目および国際関係を理解し人に説明することが出来る。		
授業内容	第1回 オリエンテーション 概要と進め方, 班分け, Web Class登録の説明 第2回 地球大気の諸特性 第3回 気候を決める仕組み 第4回 気候変動の要因 第5回 将来の気候 第6回 閉じた地球と化石燃料 第7回 燃焼と大気汚染, さまざまな発電方式の比較 第8回 資源と太陽エネルギーの起源 第9回 エネルギー保存と物体の温度 第10回 温室効果ガスと地球温暖化 第11回 再生可能エネルギー活用の現状と展望 第12回 地球温暖化問題と国際政治の関係 第13回 地球温暖化に係る国際条約の成立と国家対立 第14回 国際社会の温暖化対策 第15回 地球温暖化問題が及ぼす国際政治経済的影響 第16回 定期試験		

キーワード	温室効果，地球温暖化，物質収支，エネルギー収支，化石燃料，各国の立場
教科書・教材・参考書	特に指定はなし。予習時に各自で調べる。必要があれば配布する。
成績評価の方法・基準等	予習も含めて授業への積極的な参加(20%)，レポートや小テスト(20%)，発表内容(10%)，期末試験(50%) 班による活動を中心とした授業形式であるため休みがちまたは予習をさぼりがちな人は班員に多大な迷惑が生じますので，欠席と未予習に対しては厳しい評価をします。
受講要件（履修条件）	特にありませんが，Web Classが使える(予習課題の確認。レポート提出など)ことを前提として授業を進めます。
本科目の位置づけ	本科目は，環境問題を考える上で重要な位置を占める地球温暖化に関する科目であり，本モジュールの必修科目です。
学習・教育目標	予習が出来る。人に説明できる。人の話を聞いてまとめることが出来る。自分の考えと人の考えを比べて考えを深めることが出来る。他の立場を理解できる。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	適宜指示します。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-06 環境問題を考える**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586009301	科目番号	05860093
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(生物多様性を考える)		
編集担当教員	中西 こずえ		
授業担当教員名(科目責任者)	中西 こずえ		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中西 こずえ, 吉田 謙太郎, 山口 典之		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nakanisi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部・2階		
担当教員TEL	095-819-2771		
担当教員オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00		
授業のねらい	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農林水産業の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。		
授業方法（学習指導法）	講義形式および討論		
授業到達目標	生物多様性の国内および海外の現状を理解し、農林水産業の目指すべき方向を予測し議論できる。		
授業内容	回	内容	
	1	生物多様性と地球温暖化	
	2	生物多様性と里山	
	3	生物多様性と外来植物	
	4	生物多様性と植物園	
	5	長崎県の植物相と絶滅危惧種	
	6	遺伝的多様性：その成因と機能	
	7	種多様性：種の創出機構と維持機構	
	8	絶滅：環境要因、競争排除、生息地消失、外来種問題	
	9	生態系多様性：生態系の構造と複雑性、複数生態系のつながり	
	10	ミレニアム生態系評価：生態系の機能とサービス、人間の福利との関係	
	11	生物多様性と国際条約	
	12	生物多様性と国内政策	

	13	生物多様性の評価
	14	海外における生物多様性保全
	15	国内における生物多様性保全
	16	定期試験
キーワード	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題	
教科書・教材・参考書	プリント等必要に応じて教員が配布する。	
成績評価の方法・基準等	意欲・積極性20％、レポート・小テスト30％、定期試験50％	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	環境問題を考える(B) のモジュールの中心的な課題のため必修にしている。	
学習・教育目標	生物多様性に関する事項を理解し、人に説明できる。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	適宜指示する。	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-06 環境問題を考える**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586009701	科目番号	05860097
授業科目名	●環境問題を考えるⅠ(都市環境を考える)		
編集担当教員	谷村 賢治		
授業担当教員名(科目責任者)	谷村 賢治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷村 賢治,杉山 和一,渡辺 貴史		
科目分類	全学モジュールⅠ 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	教育学部,経済学部,薬学部,水産学部		
担当教員Eメールアドレス	tanimura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階		
担当教員TEL	095-819-2719		
担当教員オフィスアワー	火曜日13：00から14:30		
授業のねらい	まず都市環境を構成する要素のうち、とりわけ緑地に着目し、緑地公園や里山などについて講義し、その際、専門外の学生にも有用と考えられる基礎知識の提示を行う。つぎに、長崎市内の都市景観や「音の風景」、過疎化が進行中の郊外における公共交通に触れる。最後に明治から昭和戦前期の長崎の歴史的景観にも眼を向ける。このように、長崎市の広域都市圏を対象として多様な視点から、その持続可能性を探り、もって都市環境の素養を養うことを、本講義のねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	人数の関係で講義形式を採るが、内容によっては時に対話も組み込む		
授業到達目標	長崎の都市環境に関する歴史および現状と課題を相当程度理解できる		
授業内容	1 開題：長崎の都市環境へのまなざし 2 緑地とは何か 3 長崎県土の保全と緑地 4 持続可能な生活環境と緑地 5 長崎市の都市公園 6 長崎市の里地・里山 7 長崎市の都市環境の現状と課題 8 斜面市街地における交通システム 9 長崎市郊外における公共交通 10 長崎市の都市景観 11 長崎市の音環境 12 人口は口ほどにものを云い：長崎市人口の成長 13 近代長崎の横顔を眺める：産業基盤の発展を振り返りながら 14 観光都市長崎、その現状と課題 15 超高齢社会と向き合う 16 定期試験		

キーワード	都市環境、緑地、里山、斜面市街地、都市景観、音環境、観光都市長崎、超高齢社会
教科書・教材・参考書	指定する。また適宜、プリントも配る。
成績評価の方法・基準等	定期試験 6 0 %、修学状況 4 0 %
受講要件（履修条件）	とくになし
本科目の位置づけ	環境問題を考える（B）の基盤授業のひとつ
学習・教育目標	知的好奇心を深化拡大させ、自分の考えと人の考えを比べて考える力をつける。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	とくになし

